



御陽群談  
五

ル 4  
1387  
5



明 弘治 4  
號 1387  
卷 5



攝陽群談卷第五

溪志編集

○濱ノ部改各所附磯

御津濱 西成郡二属又難波浦二同ジ

文德實錄卷第九云、兼和三年從大使參議

正四位下藤原朝常嗣乘第一船舶上雜事

大使委任夏四月更於難波三津濱追叙從

五位下云々

五 大使のふたつありて、これ其の一人なり、又藤原朝常の

勲古 いさ子丹と名男の女、大使のふたつありて、これ其の一人なり、又藤原朝常の

玉七 名の波にありて、これ其の一人なり、又藤原朝常の

長柄濱 同郡北長柄村二属ス

長柄濱

同郡北長柄村二属ス

身人 部三 境良 隆信

十七 志 妻此目乃船の浪子船とてつれ松とてこの女 志慶

夫木 乃とありあり此浪乃波間より居て藤子浪浪島 為深

同三 乃とありあり此浪乃波間より居て藤子浪浪島 家隆

大和 同郡大和田村二向ハリ夫木集

攝津國ニ比ス

五六 浪きよみ浦ありき津代り中船乃と海大和田浪 福在

夫木 大和田浪此を吹く風ありてさうり袖之取見也 後几兼 内大臣

住吉濱 住吉郡住吉社前ヲ云リ

五三 住吉の浪此を吹く風ありてさうり袖之取見也 坂上 節女

七賀 住吉の浪此を吹く風ありてさうり袖之取見也 伊勢

同十 住吉の浪此を吹く風ありてさうり袖之取見也 通經

名吳濱 同郡同所ニ属ス夫木集攝津ニ比

五七 住吉此名同の浪名子馬とて玉松のく浪子とて此 大倉

哥枕 住吉此名同の浪名子馬とて玉松のく浪子とて此 後暁 越製

夫木 拾ふてふ玉も此也住吉此名この浪乃秋の波此月 顕家

長居濱 右ニ同ジ

冬二 君代此の浪此の浪のうらまも此の浪のうらまも此 常盤 井道

同七 君代此の浪此の浪のうらまも此の浪のうらまも此 顕綱

全 君代此の浪此の浪のうらまも此の浪のうらまも此 不知

粉濱 右ニ同ジ或ハ粉濱ト稱ス

五五 住吉此の浪の観わけし浪の観わけし浪の観わけし 全

夫木 住吉の浪の観わけし浪の観わけし浪の観わけし 全

家集 何うやらなまのそねりる家集のむもなれた 定家

出見濱 右二同じ八雲御抄撰津國ニ比ス

五七 珠頭 何うやら出見の濱の志をわたり地祇祓儀とありあり  
色のもとにぬれくゆるじとあり

名寄 夏ハ又出見の濱を信吉とまはす抑きけり涼じらん 丹直

閏二 秋の夜ハ月の光も信吉にわきの濱の明のころり 家隆

名越濱 右二同じ

夫木 何うやら信吉とまはす抑きけり涼じらん 丹直  
サウセ 同 冬ハ又出見の濱を信吉とまはす抑きけり涼じらん 丹直

高濱 鳴下郡吹田村ニアリ夫木集撰津國

或ハ越後國ニ比ス一説鳴上郡高濱村ヲ

云、凡云、リ今世吹田村ニ属スル事高濱山

觀音寺縁起ノ傳ニ周リ

夫木 秋四 榮と樹の音もいん白あり名も高濱の秋の月 為家

同五 榮へり信吉とまはす抑きけり涼じらん 丹直

同七 高濱の濱もいん白あり名も高濱の秋の月 為家

猪名濱 豊嶋郡池田村猪名濱ニ属ス唐

船洲猪名海ニ論之夫木集撰津ニ比ス

長洲濱 川邊郡長洲村ニ属ス

夫木 拾十 何うやら信吉とまはす抑きけり涼じらん 丹直

夫木 冬二 何うやら信吉とまはす抑きけり涼じらん 丹直

同難 系代とよみ漁や釣之の長洲の渚はわか漁と云 相模

御前濱 武庫郡廣由村二属ス漁父於于是

網ヲ捕得タル鱗也二前鮫ト稱ス

攝津國風土紀云今号廣由明神是也故号

其海邊曰御前濱曰御前沖云

夫木 神地や神の渚に松尾波も打ちあつたりし所 後藤 投政

同三 神地や神の渚に松尾波も打ちあつたりし所 後藤 投政

廣由濱 右二同シ

名 志の渚に松尾波も打ちあつたりし所 廣由の渚と云 目三入 不知

夫木 名 志の渚に松尾波も打ちあつたりし所 廣由の渚と云 目三入 不知

夫木 名 志の渚に松尾波も打ちあつたりし所 廣由の渚と云 目三入 不知

夫木 名 志の渚に松尾波も打ちあつたりし所 廣由の渚と云 目三入 不知

湏磨濱 矢田部郡湏磨村二属ス

夫木 名 志の渚に松尾波も打ちあつたりし所 廣由の渚と云 目三入 不知

並濱 方角未考難波二属スル欵藻鹽攝津

國二比ス 日本書紀云仁徳天皇廿二

年天皇又歌曰於辞且屢那珥破能瑤香能

那羅珥破葦那羅倍務若虚層層能古破阿

利鷄梅云ト部兼永釋云那羅珥破葦濱

也ト所云

網子濱 方角海瀨ト同スル欵

夫木 名 志の渚に松尾波も打ちあつたりし所 廣由の渚と云 目三入 不知

高師濱 方角未考下説撰泉ノ境大小路ノ

濱ヲ指リ夫木集和泉伊賀兩國ニ比ス大  
 名寄撰津國トス 日本書紀卷第三十  
 云持統天皇三年河内國大鳥郡高脚海  
 今大鳥郡ハ和泉國ニアリ是ヲ以テ泉州  
 ニ屬シテ其名アリ亦武庫郡小松村ノ濱  
 邊ニ高師ノ号アリ後世國ヲ割テ郡里轉  
 變ノ例アリ混合シテ其證分難シ  
 五一 大伴乃たは後松子の海にすむるは乃た也  
大上天皇  
今今 沖は後松子の海にすむるは乃た也と云ふは乃た也  
續古 續古 乃たは乃たの海にすむるは乃た也と云ふは乃た也  
十二 乃たは乃たの海にすむるは乃た也と云ふは乃た也  
 飽濱 方角證歌未考歌枕撰津ニ比ス夫木

集飽津浦アリ万葉集飽浦ト讀ル歌其部  
 二然リ  
 乃宇濱 方角文字未考夫木集未考國  
 上古豊嶋郡内西海ニ續テ猪名水門海浦  
 等ノ名所アリ今此濱モ豊嶋郡箕面山ノ  
 蘇平尾村ニ屬スル欵ノ一説アリ  
夫木 夫木 乃たは乃たの海にすむるは乃た也と云ふは乃た也  
七 七 乃たは乃たの海にすむるは乃た也と云ふは乃た也  
 船瀬濱 方角未考夫木集撰津播磨ノ兩國  
 二比ス一説今播磨街道有馬郡生瀬村ニ  
 轉セル欵ト云リ  
 乃たは乃たの海にすむるは乃た也と云ふは乃た也

夫木 カウ 生田磯 カウ 矢田部郡生田宮村免原郡生田村  
兩所ニ属ス

利嶋磯 カウ 方角未考夫木集標津國ニ比セリ

日本書紀卷第八云仲哀天皇八年春正月  
限利嶋阿閉島為御言割云猶嶋部ニ詳也

八旅 カウ 船とゆへし海磯のうへにたてし世後ありてはし  
夫木 カウ 舟とゆへし海磯のうへにたてし世後ありてはし  
良清

○同俗名所

北濱 西成郡大坂ノ町家ニアリ前ニ淀川

人流ヲ置テ市店北ニ向ヲ以テ北濱ノ名  
アリ此所皆米穀ヲ高ノ所也此外東横堀  
ヲ東濱ト云西横堀ト云ヲ西濱トスル也  
大坂ノ市中也

大物濱 川邊郡尼崎ニアリ 東鑑云文治

元年十二月十五日豫州喜出来相尋之處

豫州出都赴西海之曉被相伴至大物濱云

討出濱 免原郡討出村ニアリ所傳云佳背

神功皇后三韓征討給テ筑紫ニ歸玉也

皇子生是則第三御子 應神天皇皇子也于時

第一皇子齋坂第二忍熊皇子是ヲ惡玉也

軍士ヲ此濱ニ集テ船ヲ待望局知之南海  
 ニ巡テ歸洛シ玉ト也皇子軍士討出ルヲ  
 ステ討出濱ノ号アリト云リ歌名所打出  
 濱ハ近江國ニアリ日本書紀卷第九云  
 神功皇后十年春二月皇后領群卿及百寮  
 移于穴門豐浦宮即收天皇之喪從海路以  
 向京時麤坂王忍熊王聞天皇崩亦皇后西  
 征并皇子新生而密謀之曰今皇后有子群  
 臣皆從乎必共議之立初主吾等何以兄從  
 弟乎乃詳為天皇作陵詣播磨興山陵於赤  
 石仍編船組于淡路嶋運其嶋石而造之則

討出濱



長門初年淡路島  
 運其嶋石而造之則



每人令取之而待皇后於是犬上君祖倉見  
別與吉師祖五十挾茅宿稱共隸于麁坂王  
周以為將軍令興東國兵時麁坂王忍熊王  
共出蒐餓野而祈狩之日祈狩此云千若有  
成事必獲良獸也二王各居假廢赤猪忽出  
之登假廢咋麁坂王而殺季軍士悉慄也忍  
熊王謂倉見別曰是事大恠也於此不可待  
敵則引軍更返屯於住吉時皇后聞忍熊王  
起帥以待之命武內宿禰懷皇子橫出南海  
泊于紀伊水門皇后船直指難波于時皇后  
之船廻於海中不能進更遷發古水門云

遠矢濱 夫由部郡兵庫津和田小松原二尸  
リ所傳ニ云建武年中本間孫四郎重好遠  
矢射夕儿船ヲ以テ濱ノ号ト成リト云リ  
俗語太平記ニ出ルニ同じ也外濱ノ名ア  
儿部民家村里ノ地名ニヨリ始ニ記ス北  
濱ノ説ニ准因テ俗名所トスルニ不足シ  
テ皆略ス之

○瀧ノ部 歌名所附崎俗名所  
難波瀉 西成郡ニ属ス方角海浦ニ同じ

五四 難波之怪子のねりわきまきいのみか  
六冬 續千 六冬 ねりわきまきいのみか  
実衡

風采 如子深入い字をき夕見叙抄も抄のしりしり 通相  
黒牟瀉 同郡二属入方南大江津二論之夫

本集紀伊國云々大名寄撰津國ニ比ス

難波崎 同郡二属入 日本書紀卷第三云 難波崎 同郡二属入 日本書紀卷第三云

神武天皇戊午春二月下酉朔丁未皇帥遂

東袖艦相接方到難波之崎云々

御津崎 同郡二属入 日本書紀卷第二云

天照大神復遣武甕槌神及經津主神先行

駈除時二神降出雲國使問大己貴神曰

汝將此國奉天神耶以不對曰吾兒事代主

神射鳥遊遊在三津崎今當問以報之云々

長居瀉 住吉郡住吉二属入

淺香瀉 同郡同所二属入浦二同也

同郡同所證歌未考

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス

同郡同所二属入藻鹽撰津國ニ比ス



和田碕 夫田部郡兵庫ニアリ夫木集撰津

國ニ比ス和田或ハ輪田ニ作リ

至 夕附日下のもつて船のりやいこつて風

歌大 めつてまゝのち流れ車船のりやいこつて風

夫木 舟のりやいこつて風

高彦崎 方角未考一説味相高彦根神降臨

ノ所ニ因テ高彦崎ト稱ス下云月然ハ西

成郡高津ニ属ス下云凡其證不詳

夫木 天北はむけ代り味いこつて風

利嶋碕 方角未考夫木集撰津國ニ比ス引

書利嶋碕ニアリ

イ

イ

天旅 舟のりやいこつて風

夫木 舟のりやいこつて風

石間崎 方角證歌未考歌枕撰津國ニ比ス

莖崎 方角未考夫木集撰津國亦駿河アリ

夫木 舟のりやいこつて風

同 舟のりやいこつて風

奴嶋崎 方角未考夫木集撰津淡路ノ兩國

或ハ越中國ニ比ス大名寄撰津ニアリ

夫木 舟のりやいこつて風

同五 舟のりやいこつて風

同六 舟のりやいこつて風

撰錄新記卷五

撰錄新記卷五

家隆 師光 入前大臣 不知 觀意 鎌倉 右大臣

白洲崎 方角未考大名寄撰津二比ス

名寄 新設くまのしんじりくまのしんじり白洲の邊小貝抄のり 西行

五百崎 方角未考一説免原郡魚崎村ニ轉

スト云リ今按スルニ此所武庫水門ニ近

シ然ラハ應神天皇御宇諸國ニ仰テ五百

艘ノ解ヲ造シメ給フ其船悉ク于是集ル

ヲ以テ五百崎ノ号アリヤ今俗魚崎ヲ以

テ與佐喜ト唱フ 日本書紀卷第九云

應神天皇三十一年伊豆國所貢之船也是

朽之不堪用中畧取其船材為薪而燒鹽於

是得五百龍鹽則施之周賜諸國因令造船



是以諸國一時貢上五百船悉集於武庫水

門當此時新羅調使共宿武庫云々

川崎 方角歌名所トスル事未考一説西成

郡天満川崎ニ属ス其證各不詳大名寄未

考國云々歌名所川嶋ノ末ヲ以テ川崎ノ

号アリヤ然ラハ西成郡トスルモノ故

千首 柳(之)蓬(之)系(之)結(之)川(之)崎(之)モ(之)あり

○同俗名所

曾根崎 西成郡曾根崎村田圃ノ字ニアリ

所傳地名ニ因リ

柳崎 川邊郡尼崎ニアリ所傳川柳生哉リ





生院勸進所又リ因テ世ニ大佛嶋ト稱ス  
猶俗名所ニ詳也名寄攝津國富嶋トアリ

豐嶋 豐嶋郡ニ屬ス和名類聚ニアリ

三嶋 嶋上郡三嶋江村ニ屬ス夫木集攝津

ニ比ス筑前伊豆ニ同名アリ

拾五慮 海のほとりては海をわたりて火のあきくものきほきほ

堀百 多事なるはるかに此子の記をうくすは海に

浦初嶋 川邊郡尼崎ニアリ今民家市店ト

成テ辰巳ト稱ス夫木集攝津國ニ比ス

後撰 十一 ありては海をわたりて火のあきくものきほきほ

新子 ありては海をわたりて火のあきくものきほきほ

夫木 小夜子なるは海をわたりて火のあきくものきほきほ

姫嶋 同郡ニ屬ス方角所指不詳夫木集撰

津豊後兩國ニ比ス古事紀云仁徳天皇

為將豊樂而幸行日女嶋之時於其嶋鴈生

卵介召建丹宿稱命以歌問鴈生卵之狀云

日本書紀卷第九云敏達天皇十二年遣使

於葦北悉召日羅眷屬賜德爾等任情皮罪

是時葦北君等受而皆殺投弥賣嶋

也云云 攝津國風土紀云比賣嶋松原者

海邊





夫木  
春四

波間より見くし波はあめで花はうらな真津浦山 卷

假嶋 方角證歌未考、大名寄撰津國ニ比ス  
一、説川邊郡尾崎ニアリ俗名所松嶋論之

○同俗名所

將基嶋 東生郡大坂町ノ東京橋ノ北西ニ  
アリ此所淀大和ノ兩河落合流水屹ナリ  
近歳嶋ノ頭ニ石ヲ疊水ノ流ヲ除其形體  
將基ノ駒頭ノ如シ因テ号之亦此嶋ノ東  
ニ町家市店ニ續キ片原町ト稱スルノ驛  
アリ世ニ馬指ト云是ヲ以テ將基嶋ノ号  
在ト云々時ノ人稱スルノ諺也

堂嶋

西成郡天満ノ西ニアリ此嶋淀大川  
ノ西流水ニ分北ハ蜷川南ハ大川筋ノ  
中間也東ハ天満ノ市店ニ續キ西ハ福嶋  
邑ノ中途ヲ限リ昔聖徳太子四天王寺ヲ  
玉造ノ岸上ニ基タマフ時佛敵惡風波ヲ  
動シ洪水岸ヲ崩シ諸材悉ク漂流シテ此  
嶋ニ留ル因テ堂嶋ノ号ナルノ俗語又南  
北ニ流在テ其中間ナレハトテ時人洞嶋  
十号ルノ一説アリ各其證不詳貞享戊辰  
年依ニ公命市店ト成テ天満ノ地ニ附リ  
今按ズルニ五花堂ト稱スルノ亭此嶋ニ

アリ因テ堂嶋ト号タル坎羅山文集ニ所  
 載之記舊屋ノ部ニ詳也  
 大佛嶋 同郡安治川ニアリ始新掘ト稱ス  
 元祿戊寅年依テ公命市店ト成テ富嶋ト  
 改号アリ此嶋貞壽人始南都大佛殿建立  
 大勸進沙門龍生院慶上人此嶋ニ於テ  
 小室ヲ結ビ徒僧無任ヲ置テ西國方ヨリ  
 入津ノ請船及京大坂堺近郷近里ヲ勸ム  
 檀越之輩毎月于是會合シテ其功其カヲ  
 盡テ法施ヲ集ム時人号テ大佛嶋ト稱ス  
 市店ト成ルノ後東生郡上鹽町ノ側ニ壞



移ス誠ト故縁ノ所不廢ナリ  
 三代實錄云貞觀三年冬十一月廿一日是  
 日宜詔山城河内和泉攝津及七道諸國司  
 近來奉修理東大寺大毘盧遮那佛工夫既  
 成云々  
 江之子嶋 同郡ニアリ大坂ノ市中ニシテ  
 江之子嶋町ト稱ス所傳不詳一說難波江  
 ノ兒嶋ヲ以テ上略シタル坎ト云リ  
 惠比須嶋 同郡ニアリ我寫町ト稱ス所傳  
 神地ニ因リ今天滿天神ノ旅所ト成テ每  
 年六月神輿ヲ渡ル所也

寺嶋 同郡ニアリ所傳寺地ニ因リ寺嶋町  
 ト稱スルノ市店也  
 難波嶋 同郡下難波村ニアリ所傳地名ニ  
 因リ民家前垂嶋ニ續リ  
 前垂嶋 同郡道頓堀ノ川下ニアリ下女端  
 女等ノ腰布ヲ世ニ前垂ト云此所川尻ニ  
 シテ海ニ近シ南北ニ横テ潮水ノ溢ヲ防  
 因ッテ前垂布ニ譬之  
 九条嶋 同郡九条村也此所香西哲雲開發  
 ノ處ナリ所傳九条村ノ記ニ詳也哲雲ハ  
 將軍ニ仕テ義ヲ素武ニアリ就テ  
 公料

伎此津ニ遊歴スルノ序也  
 四貫嶋 同郡傳法村ノ邊ニアリ此嶋成テ  
 後人價四貫文ヲ以テ得之時人四貫嶋ト  
 稱スルノ俗語ナリ  
 出來嶋 同郡同所ノ西北ニアリ田圃新聞  
 ノ地ナリ因テ出來嶋ノ号アリ  
 城嶋 同郡出來嶋ニ近シ田圃開依ノ地也  
 中之嶋 同郡大坂市中ニアリ淀川ノ程ヲ  
 南北ニ排テ嶋ノ頭東ニ在テ上中之嶋ト  
 稱シ西ノ限ヲ湊橋町ト号又此所西園方  
 國主城主ノ第宅梵ヲ並ベ市店間ニ交リ











ちよひしむつちあふるたむわのめとて、おはせんははれたる  
 おのりのあつしあつし、現としひくゆへくされし  
 一法にてあしりまうたねあまのくね波のしとほりか  
 とかておとせしは車まわつたれいひをれとあし  
 おのりてあしりまうたねあまのくね波のしとほりか  
 おのりてあしりまうたねあまのくね波のしとほりか  
 衣ぬきくはひもゆもあまのくね波のしとほりか  
 乃らまは、いゝあつしあつしあつし

經之嶋 矢田部郡兵庫津ニアリ世俗兵庫  
 ノ築嶋ト云此嶋ハ平相國清盛公始テ令

築之、大風波ヲ動レ潮逆登テ再元ノ青海  
 ト成リ重テ阿波民部重能奉行シテ往來  
 三拾人ヲ擲捕海底ニ沉テ嶋成就セント  
 ス松玉兒童諫之其捕人ニ命ヲ替リ且ハ  
 數石ヲ以テ經文ヲ書寫シ海中ニ拋築之  
 于時應保元年七月十三日嶋既成ルノ供  
 養アリ因テ經之嶋ト稱ス猶經嶋山來迎  
 寺記ニ詳也

撰陽群談卷第五終

